

温泉を使った地域活性化プロジェクト

温泉班×銀山班

1. プロジェクト作成の経緯

石見には 27 か所も温泉がある。一地方にこれだけの温泉があるというのは全国的にも非常に珍しい。しかしながらその知名度は低く、さらに石見の土地柄、温泉が山の奥深くあり簡単に行くことができない。そのような問題を抱えた石見の温泉にどうしたら人が訪れるのか、人が訪れることで石見地方が活性化するためのプランを考える。

2. プロジェクトについて

・温泉を使った地域活性化プロジェクトを考えていく上で、私たちはあることに気がついた。石見は温泉だけではない、まだ素晴らしいものがたくさんある。そこで注目したのが石見銀山である。

・石見銀山

2007年に世界遺産に登録され、全国的にも地名度がある石見銀山。1950年代から江戸時代まで銀の採掘で栄えた場所であり、今でも古き良き町並みが残っている珍しいところである。

石見銀山が抱える問題点

- ・空き家が多く存在する。
- ・観光客は増えたが行き来の不便が残る。
- ・観光客の往来により、地元住民の生活に支障が出ている。

石見銀山周辺の温泉

温泉津温泉

30分

湯迫温泉

20分

湯抱温泉

1時間



3. 具体的には

大森町の空き家を活用し、田舎暮らし体験をしてもらう。温泉めぐりのスタート地点は温泉津温泉。温泉津温泉は石見銀山の外港として発展した温泉のある港町。江戸時代以来の町割りを良く残し温泉旅館、社寺等の伝統的建造物が残っている。また、銀山街道の拠点となっていた場所でもある。

県外から来る方は、早くても昼に島根へと到着する。温泉津から石見銀山へと続く街道の歴史について学びながらその途中にある温泉津・湯迫の温泉に入ってもらおう。

大森町へ到着するころには夜になっているので、囲炉裏のある家で田舎暮らしの体験をしてもらう。翌日、石見銀山へ赴き、銀山の歴史に触れてもらう。

4. 利点

温泉津をスタート地点にし、銀山街道をさかのぼりながら温泉めぐりをする事で、「温泉を使った」プランということが前面に出る。

大森町の空き家の活用となり、また、田舎暮らし体験をしてもらうことで環境保全・里山保全の大切さに「さりげなく」気づいてもらえる。

5. まとめ

石見の温泉の活性化には様々な問題を抱えている。やはり温泉単体だけで活性化しようというのは非常に難しい。しかし、たくさんの魅力を持っている石見の他のお宝を使うことで新しい活性化の道となればと考えた。今回は石見銀山を温泉と組み合わせた。石見銀山は現在過疎化が進み、空き家も増えている。今回のプランの二次的創造ではあるが、定住というものがある。しかし、大森町に急激に定住者が増えても大森町の町並みが変わってしまっただけでは逆効果である。地域の方と新規に来られる方が手を取り合っただけでこれからも今の町を大切にしていけることが自然にやさしい地域活性化なのではないかと思う。